

はじめに

本報告書は、平成 25 年度に取り組んだ千葉大学大学院人文社会科学研究科研究プロジェクト「社会とつながる学校教育に関する研究(2)」(研究代表者：藤川大祐 千葉大学教育学部教授)の成果をまとめたものである。

私たちは、平成 23 年度、千葉大学大学院人文社会科学研究科研究プロジェクトとして、「社会とつながる教員養成に関する実践的研究」に取り組んだ。ここでは、教員養成段階の学生を従来の学校文化に適応させることばかりが重視される状況を批判的にとらえ、学校と学校外の社会との両方を視野に入れ、社会の変化に対応した学校を支えられるような教員の養成がいかに可能であるかを、いくつかの実践的な取り組みを通して検討した。

そして、平成 24 年度は、テーマをより広く「社会とつながる学校教育に関する研究」とし、学校と学校外の社会とをさまざまな形でつなげる取り組みを、広い視野をもって進めることとした。教員養成に直接関係する取組を進めながらも、私たち「授業実践開発研究室」が取り組む新たな授業プログラムの開発に関する成果を重ねてきた。

平成 25 年度は、前年度の研究を継続し、「社会とつながる学校教育に関する研究(2)」を掲げて研究を進めることとなった。情報通信技術の発展をはじめとする社会の変化に対応してどのような授業実践が求められ、そうした実践を支える教員をどのように養成するかが、この研究を貫く問題意識である。

情報通信技術の発展は、産業や国際関係など私たちの社会に大きな変化を及ぼしている。社会を個々の要素の単なる寄せあわせとしてでなくネットワークの構造としてとらえ、解決が難しかった問題に対して新たな発想にもとづく解決策を探せるようになることが、あらゆる場面で求められている。そして、こうした発想での教育を担える教員を養成する教育を、教員養成系大学は進めていかなければならない。私たちの研究は、こうした要請に対して、実践的な文脈の中での答えを重ねていく営みである。

今回の研究のテーマの一つに、いじめ防止に寄与する授業プログラムの作成がある。2013 年、いじめ防止対策推進法が成立し、文部科学省がいじめ防止基本方針を定めた。現在は、各学校や地域が新たないじめ防止対策を進めつつある。多様な人々がネットワークをなす社会において、いじめ問題という弊害をいかに小さくできるかについて、私たちの知恵が問われている。本報告書では、「社会とつながる学校教育」という発想で、一つの策を示している。

社会のあり方や学校のこれからについて、理念だけで語ることにはあまり意味はない。理念レベルの議論と具体的な実践との両方が必要である。本報告書は、私たちのこうした実践的研究を報告するものである。

千葉大学教育学部教授
藤川 大祐

